

2019 年度秋季大会の告示

I. 大会の案内

1. 期 日

2019 年 10 月 28 日（月）～10 月 31 日（木）

2. 会 場

福岡国際会議場

〒812-0032 福岡県福岡市博多区石城町 2-1

Tel: 092-262-4111

<https://www.marinemesse.or.jp/congress/>

※会場の福岡国際会議場と同じ並びにある「福岡国際センター」とお間違えのないようにお越しください。

3. 研究発表

口頭及びポスター形式で行われます。研究発表の詳細につきましては下記「IV. 研究発表要領」をご参照下さい。

4. 大会日程

大会は以下の日程で行われる予定です。

第 1 日（10 月 28 日）

午後：口頭

第 2 日（10 月 29 日）

午前：口頭

午後：13:00-15:00 小倉特別講義（国際会議場
メインホール）

15:00-17:30 各賞授賞式および受賞者記念講演（同上）

夕方：懇親会（福岡サンパレスホテル）
（国際会議場隣接）

第 3 日（10 月 30 日）

午前：口頭（小倉特別講義連携セッションを含む）、ポスター

午後：口頭

第 4 日（10 月 31 日）

午前：口頭、ポスター

午後：口頭

5. 懇親会の会費と期日

期日・時間：2019 年 10 月 29 日（火）（大会 2 日目）18:00～20:00

会場：福岡サンパレスホテル（大会会場隣接）

会費：一般 前納 5,000 円，当日 6,000 円

学生 前納 4,000 円，当日 4,500 円

※事前申込（前納）の人数をもとに定員を設定します。当日申込も可能ですが、予定数に達した場合には参加をお断りすることがありますので、できるだけ事前申込（前納）をお願いします。

6. 大会ウェブサイト

本大会用の大会ウェブサイトを開設しています。大会参加手続き、講演申込受付、大会プログラム、大会発表規程などの詳細につきましては、こちらをご参照下さい。URL 等につきましては、気象学会ホームページ (<https://www.metsoc.jp/>) をご参照下さい。

II. 大会参加手続き

1. 講演を行う場合の参加申込方法

本大会告示の後に掲載した「日本気象学会 大会発表規程」に従って講演の申込を行って下さい。

原則として大会ウェブサイト上からオンラインで行って下さい。オンラインで大会予稿原稿を送付できない場合や、クレジットカードによるオンライン決済ができない場合など、止むを得ない事情がある

場合は、電子メールによる申込を受け付けます。

なお、大会参加登録、参加費・投稿料支払済みであることを講演申込資格とさせていただきますのでご注意ください。また、非会員の講演申込は専門分科会に限定していますのでご注意ください（VI. 非会員、団体会員の大会講演について）。

1.1 オンラインによる申込

- ・締切：2019年7月9日（火）15時（日本時間）
- ・大会ウェブサイト参照し、指示に従って申込をして下さい。
- ・大会ウェブサイト上で最初に個人情報とID・パスワードの登録を行います（前回のID・パスワードはそのまま利用することはできません。お手数ですが、改めて個人情報とID・パスワードの登録を行って下さい）。このIDとパスワードによって登録システムにログインし、大会参加登録・講演申込・大会予稿送付・参加費決済などを行います。
- ・個人情報とID・パスワードの登録は講演者本人が行ってください。申込締切後、プログラム編成を支障なく進めるために、登録された個人情報は講演者本人のものであることが必要です。また、一つのIDで、講演者の異なる2件の講演申込を行うことは控えてください。ご協力をお願いします。
- ・事前に郵送で大会参加票と大会案内冊子を届ける予定です。登録の際には、郵送物を受け取ることが出来る住所（必要な場合は部署名まで）を記入してください。
- ・講演申込の前に、予め大会参加登録と参加費・投稿料の払込（クレジットカード決済）を行って下さい。大会参加登録と参加費・投稿料の決済が行われていない場合、講演申込は受け付けられません。
- ・オンライン決済の際には、個人情報登録者本人以外の名義のクレジットカードも使用可能です。
- ・大会予稿原稿もウェブサイトよりご送付下さい。ファイル形式はPDF（容量の上限は1MB）に限ります。
- ・大会予稿原稿を投稿する際には、ウェブサイト上で著作権委譲に同意する必要があります。
- ・講演に関する要望がある場合は所定の欄に記入して下さい。要望事項は、プログラム編成時に可能な限り考慮するように努めますが、諸事情により要望に沿えない場合があるのでご了承下さい。なお、講演の発表日時の希望は原則として受け付けません。また個別の要望についての回答は致しませんので、併せてご承知おき下さい。
- ・講演申込締め切り（7月9日（火）15時）までは、ウェブサイト上において、一旦申込んだ講演申込の登録内容の修正や大会予稿原稿の差し替えなど

を行うことができます。ただし講演のキャンセルはできません。

- ・締め切り後の講演申込や大会予稿原稿の差し替え等は受け付けません。

1.2 電子メールによる申込方法【事務負担軽減のため、なるべくオンライン申込をご利用下さい】

- ・締切：2019年7月2日（火）
（オンライン申込に比べて締切日が1週間早くなっています。ご注意ください。）
- ・以下の4点を講演企画委員会事務局（下記）まで電子メールにてお送り下さい。
 - ① 大会予稿原稿（PDF形式）
 - ② 講演者氏名（漢字、ふりがな、ローマ字）、所属、所属略称、会員番号（非会員の場合は「非会員」と明記）、発表形式、連絡先（住所・電話番号・E-mailアドレス）、講演題目、主・副キーワード、投稿料種別（投稿料A/投稿料B）、懇親会（参加/不参加）、その他必要事項を書いたもの（様式は自由）
 - ③ 郵便振替払込受領証のコピー（次項参照）
 - ④ 全ての著者のサインを記載した著作権委譲承諾書（フォーマットは以下に掲載）
https://www.metsoc.jp/E/msj_copyright.pdf
- 送付先：kouenkikaku2019a@mri-jma.go.jp
（件名に「講演申込2019a」と明記して下さい。）
- ・講演申込の前に、以下の要領に従って郵便振替によって参加費・投稿料を納入して下さい。
 - －口座番号は「00130-3-5958」、
 - 加入者名は「日本気象学会」です。
 - －「通信欄」に以下の項目を記入して下さい。
 - ① 「2019年度秋季大会参加申込」と明記
 - ② 会員番号（非会員の場合は「非会員」と明記）
 - ③ 投稿料種別（投稿料Aまたは投稿料B）
 - ④ 参加費・投稿料金額
 - ⑤ 懇親会費金額
 - ⑥ 合計金額
 - －「払込人住所氏名」の欄に、住所・氏名・電話番号をもれなく記入して下さい。
 - －払込料金は本人負担でお願いします。
- ・事前に郵送で大会参加票と大会案内冊子を届ける予定です。上記の住所記入の際には、郵送物を受け取ることが出来る住所（必要な場合は部署名まで）を記入してください。

1.3 講演のキャンセルについて

- ・講演申込後は、講演のキャンセルは原則として受け付けられません。止むを得ず大会参加や発表を取り止める場合でも、すでに支払われた参加費・投稿料・懇親会費は返却しませんのでご注意ください。
- ・講演者の都合が悪くなった場合の代理発表につきましては、柔軟に対応いたしますので講演企画委員会 (kouenikaku2019a@mri-jma.go.jp) までご相談下さい。ただし、非会員による代理発表は認められません。

2. 講演をしない（聴講のみ）場合の参加手続き

以下のいずれかの方法で参加費等を納入して下さい。事務負担軽減のため、なるべくオンライン（大会ウェブサイト）による事前登録をご利用下さい。

2.1 オンラインによる申込

2019年8月27日（火）までに大会ウェブサイトに参加登録し、参加費を払込んで下さい（クレジットカード決済のみ）。期日までに参加費の払込が済まされない場合は、参加登録は無効となります。

事前に郵送で大会参加票と大会案内冊子を届ける予定です。登録の際には、郵送物を受け取ることが出来る住所（必要な場合は部署名まで）を記入してください。

2.2 郵便振替による申込方法【事務負担軽減のため、なるべくオンライン申込をご利用下さい】

- ・2019年8月20日（火）までに、郵便振替で参加費を払込んで下さい。
 - －口座番号は「00130-3-5958」、
 - 加入者名は「日本気象学会」です。
 - －「通信欄」に以下の項目を記入して下さい。
 - ①「2019年度秋季大会参加申込」と明記
 - ②会員番号（非会員の場合は「非会員」と明記）
 - ③参加費金額
 - ④懇親会費金額
 - ⑤合計金額
 - －「払込人住所氏名」の欄に、住所・氏名（漢字、ふりがな、ローマ字）・電話番号・E-mailアドレスをもれなく記入して下さい。

－払込料金は本人負担でお願いします。

－事前に郵送で大会参加票と大会案内冊子を届ける予定です。上記の住所記入の際には、郵送物を受け取ることが出来る住所（必要な場合は部署名まで）を記入してください。

2.3 大会当日に会場で申込

当日会場で参加登録をして、参加費を現金で支払って下さい（当日料金は前納と比べて割高となっていますのでご注意ください）。

3. 参加費、投稿料、懇親会費

3.1 大会参加費、投稿料

- ・参加費と投稿料に分離されています。参加費には大会講演予稿集費が含まれます。
- ・参加費（予稿集費含む、消費税込）は以下の表の通りです。

参加費		
種別	前納	当日
会員	5,000円	6,000円
非会員	9,000円	10,000円

- ・投稿料（消費税込）は以下の表の通りです。

投稿料		
種別	1件	2件
投稿料A	6,500円	11,500円
投稿料B	3,000円	6,000円

- ・投稿料の種別：
 - 投稿料A：研究機関・大学に所属する講演者（ただし、学部生・院生は除く）
 - 投稿料B：投稿料Aに該当しない講演者による投稿
- ・投稿料Aの2件目の投稿料は5,000円に割引されます。
- ・気象学会会員でない方の講演発表については、「VI. 非会員、団体会員の大会講演について」を参照して下さい。

3.2 懇親会費

- ・懇親会費（消費税込）は以下の表の通りです。世代を問わず多くの方々に参加していただき交流を

深めたいと思います。

懇親会費		
種別	前納	当日
一般	5,000 円	6,000 円
学生	4,000 円	4,500 円

- 懇親会費はオンラインもしくは郵便振替で参加費と同時に前納することが出来ます。期日までに懇親会費の払込が済まされない場合は、前納による参加登録は無効となります。当日料金は前納と比べて割高となっていますのでご注意ください。

3.3 その他

- 一旦支払われた参加費・投稿料・懇親会費は返却いたしません。
- 参加費・投稿料・懇親会費の種別は、支払い時点での所属によって判断して下さい。一旦支払われたあとの所属変更などによる種別の変更はいたしません（追加の支払い請求や差額の払い戻しなどは行いません）。

Ⅲ. 大会予稿原稿作成要領

1. 原稿サイズ・枚数

1 件あたり A4 判 1 枚とします。

2. 作成方法

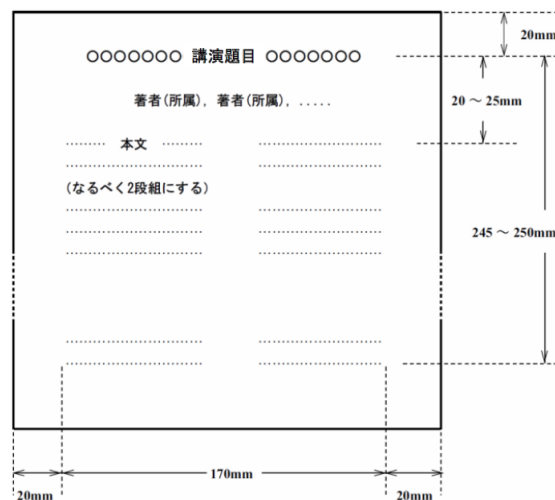
ファイル形式は PDF（容量の上限は 1 MB）とします。階調のある写真や図は、明瞭度が落ちる場合がありますので作成時にはご注意ください。特に、カラーの写真や図は明瞭度が極端に落ちる場合がありますので、予めご承知おき下さい。

3. 配置（付図参照）

記載範囲は縦 250mm×横 170mm 以内とし、上部には 20mm の余白をとって下さい。最上段に講演題目、その下に著者と所属を書き、本文をその下につけて下さい。著者が複数の場合には講演者の左肩に＊をつけて下さい。講演題目から本文までの間隔は 20～25mm として下さい。本文は原則として 2 段組（左半分→右半分）にして下さい。

4. 著作権

予稿集に掲載された文章および図表の著作権は（公社）日本気象学会に帰属します。



図：A4 判用紙による大会予稿原稿の作成要領

Ⅳ. 研究発表要領

1. 発表の種類

講演方法には、口頭発表（専門分科会を含む）とポスター発表の 2 種類があります。

2. 発表件数の制限

1 講演者あたりの発表件数は 2 件以内とします。ただし内容がほぼ同一と見なされるテーマでの 2 件

の発表は認められません。この制限に抵触する申込があった場合には、講演企画委員会が適切に対応します。また、2 件の口頭発表を申込まれた場合、希望通りのセッションに組込むことが出来ない場合があることをご了承ください。

3. 講演方法の選択について

講演方法（口頭／ポスター）につきましては講演

申込時に選択できますが、申込件数や会場の都合等により希望通りにならない場合があることを予めご了承ください。なお、講演申込時に講演方法の希望がない場合は、講演企画委員会の裁量で振分けを行います。

4. 口頭発表の概要

口頭発表の講演時間は全て同一とします。1件あたりの講演時間は、口頭発表に配分された時間の総計を申込件数で割ったものを目安として講演企画委員会が決定し、大会プログラムに掲載します。

5. 専門分科会の概要

- ・専門分科会の各講演の講演時間は世話人が決定し、大会プログラムに掲載します。
- ・専門分科会への講演申込締切日は一般講演と同じ（オンライン申込は7月9日（火）、電子メール申込は7月2日（火））です。
- ・専門分科会に申込まれた発表については、世話人が大会予稿原稿を審査して、専門分科会での発表を認めるかどうかを判断します。
- ・専門分科会に申込まれた発表が、世話人によって専門分科会に適さないと判断された場合には、講演者が気象学会会員の場合は、一般発表に振替えます。講演者が非会員の場合は、大会予稿は不採択となり、参加費・投稿料が返却されます（VI. 非会員、団体会員の大会講演について）。
- ・各専門分科会の詳細につきましては、「V. 専門分科会のテーマと趣旨」をご参照下さい。

6. ポスター発表の概要

- ・ポスター発表の時間は1時間程度とします。ポスター発表の時間には他の行事は行われません。
- ・ポスターの掲示・撤去は、講演者の責任で行って頂きます。
- ・掲示スペースは、高さ210cm×幅90cmとします。画紙を準備します（マグネット不可）。なお、ポスターは大きな紙1枚に書く必要はなく、小さい紙に分けて書いたものを当日並べて掲示しても構いません。

7. 講演における機器の使用について

- ・口頭発表（専門分科会を含む）では、PCプロジェクターが使用できます。それ以外の機器は使用できません。
- ・PCプロジェクターを使用する場合は、以下の点に留意して下さい。
 - －パソコンは各自でご準備下さい。会場にはプロジェクターのほか、VGAケーブル及びHDMI-VGA変換アダプタを準備します。VGA（ミニD-sub15ピン）、あるいはHDMI（フルサイズ）コネクタを装備したPCを準備ください。
 - －セッション開始前の休憩時間などを利用して、必ず接続の確認を行っておいて下さい。接続に不安がある場合は、その際に会場係に申し出て下さい。
 - －突然の故障や接続の際のトラブルが発生した場合、座長の判断で発表順の繰り下げなどの対応をすることがあります。携帯用メディアによるバックアップファイルの準備など、トラブルへの備えは講演者自身で行って頂くようお願いいたします。
- ・ポスター発表で機器を使用される場合は、講演申込時に機器の概要（大きさや使用法など）をお知らせください。ただし、会場にはAC電源を準備しません。また会場のスペースの都合上、ご希望に添えないことがあることをご了承ください。口頭発表への申込をする場合も、プログラム編成上の都合によりポスター発表に振替えられた時に、機器を使用する可能性があれば同様に届け出てください。

8. その他

- ・大会プログラムは大会ウェブサイトに掲載されます。
- ・口頭発表セッションにおける座長は、テーマごとに発表者の中から選ばれることが多くなっています。講演企画委員会が、座長候補者を選び、候補者へはその承諾に関する打診を行いますので、その際にはご協力願います。

V. 専門分科会のテーマと趣旨

2019 年度秋季大会では下記の通り、6 件の専門分科会が開かれます。

1. 水蒸気観測技術の進展と豪雨予測への貢献

趣旨: 急激に発達する積乱雲をもたらす局地的豪雨、数時間ほぼ同じ場所に大雨をもたらす被害を激化させる線状降水帯等、災害をもたらすシビアストームの機構解明や予測技術の改善にとって、水蒸気情報の改善が必須である。

近年、水蒸気観測の技術は急速に発展している（水蒸気ライダーによる鉛直構造観測、気象衛星による中・上層水蒸気の高頻度観測、地上デジタル波放送信号や気象レーダー電波を用いた下層水蒸気観測、精密衛星測位 (GNSS) による海上観測や積乱雲スケールの水蒸気変動観測等）。進展する新しい水蒸気観測技術の現状を把握し、豪雨の予測や機構解明への活用に向けた課題を議論したい。

観測技術開発やフィールド観測に携わる方、データ同化やモデルへの利用法の研究者、また豪雨の機構解明を目指す立場からの参加をお願いしたい。

世話人: 小司禎教 (気象研究所)、清水慎吾 (防災科学技術研究所、国家レジリエンス研究推進センター)、瀬古弘 (気象研究所)、永井智広 (気象研究所)

2. 藤田哲也生誕 100 年ーわが国における竜巻研究ー

趣旨: Mr. Tornado・藤田哲也 (1920 - 1998) は、福岡県北九州市小倉南区中曽根で誕生した。メソ気象学の先駆的論文 Micro-analytical study of thunder-nose を Byers 教授へ送付したことから、シカゴ大学へ招聘された。1953 年以降、竜巻などの強風現象が地上に残した地上絵を観測・解析する、独創性に富んだ「藤田メソッド」で業績を残した。彼は、導き出した仮説を、ドップラーレーダーを用いて実証し、メソ気象学を開拓した。竜巻の強さとその被害を定量的に評価した F-スケールとダウンバースト (DB) の発見が著名。DB の発見は、防災と航空機の安全運行に大きく貢献し

た。藤田の生誕 100 年を記念して、我が国に於ける、竜巻、DB、レーダー観測、短時間予測、F (JEF) スケール等の報告を歓迎。このテーマは、藤田博士ゆかりの地である福岡で開催される大会に相応しい。

世話人: 橋本昭雄 (藤田哲也博士記念会)、小林文明 (防衛大学地球海洋学科)、野田 稔 (高知大学)、横山辰夫 (福岡管区气象台)、中村 弘 (藤田哲也博士記念会)、金氏 颯 (藤田哲也博士記念会)、藤崎 擴 (藤田哲也博士記念会)

3. 雲・降水粒子研究の現状と発展

趣旨: 雲・降水粒子の生成・成長に関わる素過程は、大気の水・熱循環や放射収支に深く関与する。雲・降水粒子に関する物理過程の解明は、その黎明期には、主に室内実験や地上観測をとおして個々の素過程とそれらを内包する機構解明が進められてきた。また、気球・航空機・地上リモートセンシングによる観測を通して、雲・降水の物理特性の実態究明とともに、雲・降水システムの時間発展と微物理過程との関係が明らかにされてきた。近年では、飛躍的に発展しつつあるリモートセンシング観測・解析技術をもとに、多彩な地上・衛星リモートセンシング観測や数値モデリングを駆使して物理過程の解明が進められている。本分科会では、実験・観測・モデリング等、異なる研究方法を用いた雲粒子の物理過程解明に向けた取り組みに関する講演を募り、雲粒子の物理プロセス研究の現状と展望について相互理解を進め、実験・観測・モデリングの連携につながる足がかりにしたい。

世話人: 佐藤陽祐 (名古屋大学)、岡本 創 (九州大学)、高橋暢宏 (名古屋大学)、鈴木賢士 (山口大学)、橋本明弘 (気象研究所)、端野典平 (高知工科大学)

4. 気象災害と防災啓発活動について

趣旨: 日本では、気象災害は梅雨末期や台風などによる大雨が多い。この気象災害の発生は避けられないが、防災への知識や備えがあれば被害を大き

く減らすことは可能である。このため気象予報士をはじめ様々な立場の人達が小学校や公民館などで防災知識の普及啓発活動を行っている。また、放送メディアに携わる気象キャスターも多くの視聴者にむけて気象災害と防災への備えがわかりやすく伝えられるよう力を注いでいる。

このセッションでは、色々な立場や場所で防災普及活動を行っている人たちが一堂に会してそれぞれの取り組みを紹介し、問題点や知見を共有し、今後の課題等について議論を行う。

世話人：栗原めぐみ（日本気象予報士会）、園村 伸（日本気象予報士会）、永田健太郎（日本気象予報士会）、早田 蛍（日本気象予報士会）、平松信昭（日本気象予報士会）、岩田 修（日本気象予報士会）、岡田登志恵（日本気象予報士会）

5. 人工知能（AI）は気象学にブレイクスルーをもたらすか？

趣旨：気象学では、これまでにデータ同化やガイダンス等において、ベイズ推定やニューラルネットワークといった機械学習手法が用いられてきた。一方で、近年急速に発展してきた機械学習の一手法であるディープラーニング（深層学習）を初めとした人工知能（AI）技術は、様々な分野において活用され、成果を上げている。同時に、観測手法や計算機性能の向上によって、高品質かつ膨大な量の気象データの蓄積が進んでおり、AIの活用によって大きなブレイクスルーを生み出すポテンシャルを秘めていると言えよう。そこで本分科会では、昨年の秋季大会に引き続き、古典的な機械学習手法から最新のディープラーニングまでに関連した研究事例を幅広く募集する。また、総合討

論を通して、気象学におけるAIの新しい利活用方法や利活用にあたっての注意点等、将来展望について議論を行いたい。

世話人：松岡大祐（海洋研究開発機構）、筆保弘徳（横浜国立大学）、伊藤耕介（琉球大学）、中野満寿男（海洋研究開発機構）、楠 研一（気象研究所）、大西 領（海洋研究開発機構）

6. 複数手法による大気中メタン動態の把握と予測

趣旨：メタンは短寿命気候汚染物質（SLCP）の1つであり、温暖化と大気汚染の両面で重要な役割を果たすにもかかわらず、大気中の濃度変動メカニズムには未解明な部分が多い。メタン発生源には湿原・水田、化石燃料採掘、家畜など異質な起源が複雑に混ざっており、また主要な消失源である大気中でのOHラジカルとの反応は直接観測が困難であるため、メタンの全球収支の正確な定量化は困難である。近年、GOSATなど人工衛星による広域観測、濃度および安定同位体比の高精度測定、大気輸送化学モデル、渦相関法によるフラックス観測、吸収放出モデル、排出インベントリなど、メタン動態を把握するための手法が飛躍的に進展している。そこで本専門分科会では、大気中の濃度や同位体比の変動、それに影響を与える放出・吸収源、さらに将来予測までを含めたメタン動態に関する幅広い発表を募集し、今後の展開を見据えて成果の共有を図るとともに議論を行いたい。

世話人：伊藤昭彦（国立環境研究所）、梅澤 拓（国立環境研究所）、羽島知洋（海洋研究開発機構）、齋藤尚子（千葉大学）、Prabir Patra（海洋研究開発機構）

VI. 非会員、団体会員の大会講演について

気象学会会員でない方は原則として大会講演を行うことは出来ません。しかしながら、短期滞在の外国人や他分野の研究者が気象学会において講演を行う場合を考慮して、講演企画委員会では専門分科会に申込まれた講演が世話人により採用された場合に限り、非会員の講演を認めることとします。非会員が専門分科会に申込んだ講演が採用されなかった場

合は、大会予稿は不採択となり、参加費・投稿料が返却されます（講演者が気象学会会員の場合は、専門分科会で不採用になったとき、世話人と講演企画委員会の判断により一般口頭もしくはポスター発表への振替が行われます）。講演企画委員会としては、大会での講演発表を希望される方には、気象学会会員になって頂くよう強く要請します。

団体会員が団体名での講演申込を行った場合、個人会員と同等の扱いとなり、2件以内まで講演を行うことができます。ただし、団体の構成員である個

人の講演申込は認めておりませんのでご注意ください。

Ⅶ. 研究会活動への支援について

大会期間中またはその直前・直後に会員が自主的に運営する研究会活動（一般の会員が自由に参加できるもの）に対し、支援を希望する方は、次の事項を明記の上、講演企画委員会（E-mail: kouenkikaku2019a@mri-jma.go.jp）へご連絡下さい。

申込期限：2019年7月9日（火）

- 記入事項：1. 会の名称とテーマ
2. 代表者の連絡先
3. 希望日時・開催場所
4. 予想参加人数
5. 希望する支援内容

Ⅷ. 大会期間中の保育支援について

大会期間中の会場近隣の保育施設として、次の施設を紹介します。

リトルワールド博多ぎおん園

〒812-0038 福岡市博多区祇園町 2-11

Tel: 092-262-7177

Fax: 092-292-8282

<http://little-world.jp/gion-top>

※2ヶ月から就学前まで

※初めてご利用の方はメールでのご予約はできません。必ずお電話での予約をお願い致します。

※メールでのご予約は前日、19時までにお問い合わせ致します。それ以降の時間のご予約はお受けできない場合があります。

おかえりらんど

〒810-0041 福岡市中央区大名 1-5-3

Tel: 092-753-8551

<https://www.okaeri-rand.net/tenjin/>

※10ヶ月から就学前まで

※予約不要

※お電話によるお問い合わせ：朝8時～深夜2時
/（金）（土）のみ深夜3時まで。

キッズサポート博多中央保育園

〒812-0039 福岡市博多区冷泉町 2-8-1F

Tel / Fax 092-262-5566

<https://www4.hp-ez.com/hp/kids-support/>

※6ヶ月から6歳まで

※事前にメールもしくは電話で問い合わせを。

上記は情報提供のみであり、保育施設への申込は直接利用者個人で行ってください。補助の申請は事前に気象学会事務局へお願いします。学会からの保育補助は下記の保育支援ガイドラインに則ります。

http://jinzai.metsoc.jp/files/childcare_support_guideline.pdf

ご不明な点がございましたら、保育支援担当（江口@九州大学応用力学研究所, nawo@riam.kyushu-u.ac.jp）までご連絡ください。

Ⅸ. キャリアエクスプローラーロゴについて

1. キャリアエクスプローラーロゴの趣旨

近年、社会問題化している若手・任期付研究者の

キャリア形成をサポートするために、日本気象学会では、キャリアエクスプローラーロゴの利用を勧め

ています。これは、広く学術に貢献する人材の育成および活動支援の一貫として行うもので、会員が望ましいキャリア形成のために求職中の場合に、適職に出会うのをサポートします。

2. キャリアエクスプローラーロゴ

大会予稿や講演資料の中でこれを表示することで自分が求職中であることを表明できます。カラーと白黒のロゴの電子データを学会ホームページから取得できます。



3. 使用方法

ポスドクを含む任期付研究者や学生で求職中の会員、またはそれに準ずる会員が講演する場合に、大会予稿および講演資料の中で、キャリアエクスプローラーロゴを使用できます。

1. 大会予稿：白黒ロゴを、講演題目の左側に、余白にはみ出さないよう適度な大きさに挿入してください。
2. 口頭発表：発表資料の任意の場所に分かりやすく表示してください。
3. ポスター発表：講演題目付近の分かりやすい場所に表示してください。

4. 使用に関する注意

1. 日本気象学会およびその会員の主催する講演会においてのみ使用できます。
2. 講演会は学術的な講演・議論を目的に行われます。口頭発表の時間内は、求職・求人に関する議論はご遠慮ください。
3. ロゴは講演者本人の責任の下で使用してください。その使用により生じた如何なる利益・不利益に対しても、日本気象学会は一切責任を負いません。
4. ロゴ導入の趣旨および適切な使用方法を逸脱した使用は一切認められません。

X. リクルートブースの設置について

日本気象学会では、気象学会に所属する大学院生や有期雇用の若手研究者のキャリア形成をサポートするため、企業の就職担当者と就職を希望する参加者が直接情報交換する場として、大会会場内にリク

ルートブースを設置する予定です。参加企業名およびブース開設期間など詳細については大会プログラムとともにお知らせする予定です。なお、ブース訪問希望者の予約等の手続きは不要です。

XI. 大会実行委員会からのお知らせ

(会場について)

会場の福岡国際会議場と同じ並びにある「福岡国際センター」とお間違えのないようお越しください。

(参加票の事前送付と受付について)

本大会では前納受付者には、事前に大会参加票、領収証および大会案内冊子等を送付します。前納

受付者は大会参加票を持参のうえ、そのまま会場へお越しください。会場での受付は不要です。

参加票等を事前に送付するため、確実に受け取ることができる住所の登録をお願いします。事前申込後、異動や移転などで住所が変更になった場合には早めにお知らせください。

前納受付者で大会参加票を破損・紛失した方、参加票が届かなかった方は、当日受付で再発行の

手続きをとってください。この際、事前納付したことを確認できる領収証あるいは金融機関の払込票等を提示ください。

当日参加申込をされる方は受付までお越しください。参加費は現金でお支払ください（カード不可）。

前納受付者で懇親会を当日新たに申込される方も受付にて現金払いでお申込ください。なお、懇

親会は参加者が予定数に達した場合は、参加をお断りすることがあります。

（宿泊施設の早期予約について）

福岡市内は、海外からの旅行者の増加やイベントの開催などに伴い、宿泊施設が確保しにくくなっています。早めの予約をお勧めします。

XII. 大会講演予稿集と大会参加費の見直しについて

2019 年度春季大会より大会講演予稿集の配布方法ならびに大会参加費を見直しました。予稿集については、製本版に代わり、参加者全員に電子版予稿集をダウンロード配布します。詳しくは気象学会ホー

ム ペ ー ジ に 掲 載 し て い ま す
（https://www.metsoc.jp/default/wp-content/uploads/2018/12/Abstractbook_submissionfee_charge-revision.pdf）。

公益社団法人 日本気象学会 大会発表規程

(公社) 日本気象学会 講演企画委員会

1. 大会の趣旨

- 1.1 日本気象学会は、気象学の研究を盛んにし、その進歩をはかり、学術文化の発達に寄与するために、気象学会大会を春季と秋季の年二回開催し、気象に関する研究会および講演会を行う。

2. 大会参加登録

- 2.1 大会において口頭発表またはポスター発表を行う者（招待講演者も含む）は、あらかじめ大会 WEB サイトを通じて個人情報登録ならびに大会参加登録・参加費決済を行うこと。
- 2.2 大会で講演（口頭発表及びポスター発表）を行うためには、招待講演者の場合を除き、大会予稿を投稿し、講演企画委員会（以下、「委員会」という。）により採択される必要がある。
- 2.3 個人情報登録と大会参加登録は本人が行うこと。連絡先は本人に必ず連絡が取れる所とし、代理人の連絡先は認めない。事情に応じて事務局から問い合わせを行うことがある。ただし国外からの参加登録、外来研究者による参加登録、インターネットを利用できないなど、本人による登録がやむを得ず困難な場合には、代理人による登録ができる。

3. 大会予稿の作成

- 3.1 大会予稿の形式等に関しては、大会告示案内（大会 WEB サイトに掲載）に従うこと。

4. 著作権の委譲

- 4.1 本予稿原稿の著作権は、日本気象学会常任理事会決定「気象学会の刊行物の著作権委譲の強化について（2013年1月29日付け）」にもとづき、気象学会に委譲するものとする。

5. 大会予稿の投稿

- 5.1 大会予稿の投稿は、発表者が指定された期日までに行うこと。投稿に際しては、共著者の了承を得るとともに、全ての著者のサインを記載した著作権委譲承諾書を提出すること。国外からの投

稿、外来研究者による投稿など、発表者による投稿がやむを得ず困難な場合には、代理人による投稿ができる。なお、発表者の承諾を得ずに代理投稿された場合には、それを受理しない。

- 5.2 同一発表者による発表可能件数は、最大二件までとする（招待講演もカウントする）。

6. 審査

- 6.1 委員会は、審査により、大会予稿の採択または不採択を決定する。大会予稿の採択または不採択は、委員会の裁量に委ねられ、以下に示す例のように、大会予稿の内容が気象学会大会発表として不適切だと委員会が判断した場合には、不採択とすることが出来る。

- (1) 発表内容が他人の研究成果の剽窃と判断される場合、
- (2) 大会予稿が定められた体裁から著しく逸脱すると判断される場合、
- (3) 発表内容が社会倫理上、不適切と判断される場合、
- (4) 発表内容が特定の個人ないし団体を誹謗中傷するものと判断される場合、
- (5) 大会の趣旨を逸脱した目的のために投稿がなされたと判断される場合、
- (6) その他大会の趣旨に鑑み、発表内容が不適切であると判断される場合

- 6.2 発表形態（口頭発表またはポスター発表）は、発表者の希望を考慮し、委員会が決定する。

- 6.3 大会予稿が不採択となった場合には、委員会から投稿者に対して理由を附して通知する。この場合、大会参加料（または参加種別による差額）は返却する。

- 6.4 不採択の理由を不服とする場合には、発表者本人が一回に限り再審査を申し立てることができる。

7. 再審査

- 7.1 再審査の申し立ては、申し立て者の氏名・連絡先、講演題目、著者、および再審査申し立ての

理由を記載した再審査申立書（様式は任意）を、委員会事務局宛に提出すること。

7.2 再審査申立書の提出は郵送で行い、不採択の通知を受けた日を含む七日間のうちに必着のこと。

7.3 再審査申し立てに際して、大会予稿の変更は認められない。再審査は委員会が行い、結果（採択・不採択）を申し立て者に通知する。

8. 採択後の変更・キャンセル

8.1 採択後に講演内容（講演題目、大会予稿）や発表形態を変更することは認めない。

8.2 病気等やむを得ない事情で発表をキャンセルする場合は、速やかに委員会事務局に連絡すること。発表がキャンセルとなった場合には、大会参加料は返却しない。